

平成 30 年度 環境技術実証事業 自然地域トイレし尿処理技術分野

第5回技術実証検討会 [議事要旨]

日時	平成 30 年 12 月 20 日(木) 9:30~11:30
場所	港区生涯学習センター (ばるーん) 204 学習室
出席者	<p>■技術実証検討委員</p> <p>石川 郁夫 東京都環境局自然環境部緑環境課課長代理          伊与 亨 北里大学医療衛生学部 講師          河村 清史 元 埼玉大学大学院理工学研究科 教授          木村 茂雄 神奈川工科大学機械工学科 教授          桜井 敏郎 (公社)神奈川県生活水保全協会 理事</p> <p>■環境省</p> <p>藤井 好太郎 自然環境局 自然環境整備課 課長補佐          立岩 久松 自然環境局 国立公園課 課長補佐          棚原 宣継 自然環境局 自然環境整備課 施設専門官</p> <p>■実証運営機関</p> <p>星野 ちさと 一般社団法人産業環境管理協会</p> <p>■試料採取・分析・解析機関</p> <p>濱中 俊輔 (公財)日本環境整備教育センター 調査・研究グループ 調査・研究第2チーム          澤村 尚吾 (公財)日本環境整備教育センター 調査・研究グループ 調査・研究第2チーム          高橋 悟 (公財)日本環境整備教育センター浄化槽システム国際協力センター兼調査・研究グループ 調査・研究第2チーム</p> <p>■実証機関 (特定非営利活動法人日本トイレ研究所)          上 幸雄、 松本 彰人、</p>
申請者	株式会社栃木日化サービス 岩井 満
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第4回実証検討会 議事要旨 (案)</li> <li>2. 平成30年度 実証試験の途中経過 &lt;非公開&gt;</li> <li>3. 実証試験計画書について &lt;非公開&gt;</li> <li>4. 自然地域トイレし尿処理技術セミナーについて</li> </ol>
配布資料	<p>資料1 第4回技術実証検討会 議事要旨 (案) &lt;非公開&gt;</p> <p>資料2 実証試験調査結果について &lt;非公開&gt;</p> <p>資料3 実証試験計画書 (案) 株式会社栃木日化サービス &lt;非公開&gt;</p> <p>資料4 第9回 自然地域トイレし尿処理技術セミナー 開催案内案</p>
公開/非公開	議事は非公開で行われた

## [議事要旨]

### ○開会

#### ○議事 1 第 4 回実証検討会 議事要旨（案）について〈資料 1〉

前回（第 4 回検討会）を振り返り、報告を行った。

試験の開始の日付が資料によって異なる部分があったが、10 月 30 日（専門管理の日）から試験開始であることを確認した。内容については暫定版ということでペンディングとし、再確認を行う。

#### ○議事 2 平成 30 年度 実証試験調査結果について（非公開）〈資料 2〉

実証試験調査結果について、試料採取・分析・解析機関である日本環境整備教育センターより報告を行った。

#### ○議事 3 実証試験計画書（案）について（非公開）〈資料 3〉

加筆・修正事項について、検討を行った。

#### ○議事 4 自然地域トイレし尿処理技術セミナーの検討〈資料 4〉

セミナーについて検討を行った。検討内容は以下に示す。

ISO 化はすでに整合しており、31 年度より変化する実証事業の実施体制をプログラムに組み込む。  
→説明は環境省大臣官房総合政策課より行うこととする。（実証運営機関）

プログラムのうち、実証事業の紹介という部分が毎年同じ内容であるが、参加者は毎年入れ替わるため、例年通りの内容を行うものとする。（河村委員）

今年度の実証技術にも言えることであるが、山小屋のニーズをきちんと理解し、マーケットの情報をきちんと共有したほうがより良くなるのではないかと。例えば、導入によるコストやランニングコストが挙げられる。メーカーも事業として製品化していく必要があるはず。そのマッチングが必要ではないだろうか。（環境省）

→実証講座として、ディスカッションを行う場があるため、ここで発言内容を反映することを検討することとする。（河村委員長）

### ○その他

今後のスケジュールについて、次回の検討会については 2 月 12 日（火）の午後 2 時からとし、セミナーは 2 月 25 日（月）の午後に開催することとする。実証報告書の内容については次回検討会で確認を行い、必要があればセミナーの日の午前中に検討の場を設ける。

以上